

カリキュラム・マネジメント考

村井 万寿夫（北陸学院大学）

小中学校においては2020年4月からの学習指導要領完全実施に向け、カリキュラム・マネジメントによる教育課程編成が急務と言える。教育課程は学校の教育目標達成に向け学校独自で編成するものであることから、教務主任を核にどのように教科等横断して編成するか、人的または物的な体制をどのように確保するかなどについて議論している。このような状況から、カリキュラム・マネジメントについての背景を検討しつつ、カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成について考察するとともに、編成にあたる教師の心持ちについても論じた。

教育課程 カリキュラム カリキュラム・マネジメント 教科等横断

1. 教育課程とカリキュラムについて

近年、「教育課程」の言葉に代わって「カリキュラム」という言葉が多く使われるようになった。教育課程は、教育の内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画のことであり、各学校の教育計画全体が顕在化したものであると言える。

一方、カリキュラムは、教育の内容が顕在化されたものだけでなく、隠れた教育の内容、すなわち潜在的な教育の内容も含んでいる。いわば、意図的、計画的ではない教育の内容をも含む。顕在的カリキュラムは文献によると、1960年代後半から1970年代にかけてJacksonがhidden curriculumとして提唱したことが確認できる。したがって厳密には教育課程とカリキュラムはイコールではないが、カリキュラムを狭義の意味から捉え、つまり、教育の内容が顕在化されたものとして捉えて教育課程に代えてカリキュラムの言葉を使っていると考えることができる。

2. PDCA とカリキュラム・マネジメントについて

2017年に公示された小・中学校学習指導要領のポイントの一つに「カリキュラム・マネ

ジメント」がある。カリキュラム・マネジメントをポイントとする理由として、カリキュラム、すなわち教育課程を編成するだけでなく、それがどのように実施され、どのように何を学んだのかについて点検して、改善していく取り組みを重視するためであると言える。

つまり、この取り組みの中に「編成」「実施」「点検」「改善」といった言葉を見ることができ、マネジメントモデルとしてのPDCAを見出すことができる。

PDCAの考え方や取り組みが教育の世界に入ってきたことを2008年改訂の学習指導要領において確認することができる。この改訂においては、前回の改訂において新設された総合的な学習の時間についても一部改訂が行われ、教科等との関連を図ることを示すとともに、計画、実施、評価、改善というカリキュラム・マネジメントのサイクルを着実に行うことが重要であるとした。

このことから、PDCAとカリキュラム・マネジメントは学校教育を行う上で同義語と考えることができると言える。

3. 「カリキュラム・マネジメント」の定義

田村（2011）は、カリキュラム・マネジメントとは「各学校が、学校の教育目標をより

よく達成するために、組織としてカリキュラムを創り、動かし、変えていく、継続的かつ発展的な、課題解決の営みである」と定義している。カリキュラムを「創り」「動かし」「変えていく」という言葉の中に、創造的にカリキュラムをつくり学習者とともに実施しながら更により良いカリキュラムに変えていくことが大事であると読み取ることができる。

一方、中央教育審議会答申（2016）においてカリキュラム・マネジメントとは、「各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくこと」と定義している。この中では「編成」「実施」「評価」「改善」の4語がキーワードとなるとともに、2008年の学習指導要領に見られるPDCAサイクルにつながるものであると言える。

2017年の小学校学習指導要領第1章総則（p.18）において、カリキュラム・マネジメントとは「各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況の評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）」と示している。端的には「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」がカリキュラム・マネジメントであると言える。

なお、教育課程とカリキュラムについて、溝上（2018）が次のように指摘していることについても傾注しておく必要があると言える。「田村の定義でカリキュラム・マネジメントは十分に説明されていると思うが、文部科学省の同用語の説明を読むと、「教育課程」とい

う、英語にすれば同じ用語（curriculum）がカリキュラム・マネジメントのなかで併記して用いられており、教育関係者の混乱を招いている。」

4. 教育課程編成の考え方

1999年の改訂によって新設された総合的な学習の時間の教育課程編成においては、「スコープ」と「シーケンス」の考え方が注目された。スコープは「範囲」のことであり、シーケンスとは「順序」のことである。したがって、総合的な学習の時間の学習内容としてどこまでを範囲とするか、そして、範囲とした内容をどんな順序で学習していくことを想定するか。このように考えて編成していくことが重要とされたのである。

ところで、第二次世界大戦後、我が国が平和で民主的な国として歩み始めたとき、新しい教科として「社会科」が誕生した。これはアメリカのヴァージニア・プランを参考にしたものである。ヴァージニア・プランはスコープ＝シーケンス法による単元構成を行った典型的なカリキュラムと言われている。

「範囲」（スコープ）と「順序」（シーケンス）は、今回の学習指導要領で示されている「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」に合致するものであると言える。教科等を横断的に見て組み立てていく際には「範囲」と「順序」の考え方を持ち合わせる必要があると言えるからである。

例えば、小学校の場合、2020年度からプログラミング教育が実施されるが、そのための教育課程の編成の仕方が該当する。具体的には、学習指導要領においては算数、理科、総合的な学習の時間において例示されている。これをもとに、いくつかの学年・教科等を範囲及び順序として関連づけていく方法が考えられる。例えば、第5学年算数の「正多角形」の学習でプログラミングによって作図すると

した場合、この経験をもとに第6学年理科の「電気の性質や働き」に繋げていく。この場合、各学年で「1回」のプログラミング教育なので、第5学年社会科「情報と社会」と関連させたり、総合的な学習の時間で地域調べを行いコンピュータやセンサがいろいろなどころにあることを見つけていく学習と関連させたりすることが考えられる。

中学校では、第2学年国語における学習に「電子メール」で手紙を書くこと（書くこと領域）や、「インターネット」の情報を読むこと（読むこと領域）がある。この学習を具体化するためには技術・家庭科における技術の学習内容と関連づけ、それぞれの学習で扱う範囲を考えたり、どのような順序で学習していくかについて考えたりする。

以上、小学校、中学校ともに1事例ずつ具体的な関連付けについて述べたが、学習指導要領の解説編を見ていくことで、関連付けのヒントを得ることができる。また、小松市のように各学年の「カリキュラムマップ」（A3版）を作成することにより、各教科と学期・月ごとの学習単元や内容を俯瞰することができるので、これによって何と何を関連させるかについて考え、計画することができる。

以上のような考え方や方法によって、教科等横断的な視点で編成していくことができると考える。

5. まとめ

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成には「生みの苦しみ」があるかもしれない。けれど、田村の言葉を借りれば「創る」楽しさ、児童生徒と共に「動かし」ていく喜びもあると言える。

各学校の教師が担当する学年や学級の教育課程をそれぞれに編成するとともに、学年間や教科等間の関連付けを行う作業を組織的に行うことは教育を「創り」「動かし」ていくために大事な仕事であることから、編成するこ

とを楽しむ気持ちをもつことも大切なのではないかと考える。何より、児童生徒のためになるものであり、児童生徒と共に動かしていくものであるから。カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成は実務を伴うが、それにあたる際の教師の意識や心持ちも大切であると考えられる。

参考文献

- 氏原陽子（2009）「隠れたカリキュラム概念の再考—ジェンダー研究の視点から—」、『カリキュラム研究』, 18巻 pp.17-30
- 木村博一, 片上宗二（1985）「ヴァージニア・プランの分析的検討—初等学校の場合を中心に—」、『教育方法学研究』, 10巻 pp.131-141
- 小松市教育委員会（2019）「小学校 中学校 学年別カリキュラムマップ」, 小松市教務主任研修会配布資料
- 時事通信出版局（2017）『ひと目でわかる！小学校「新学習指導要領」解説付き新旧対象本』, 太平印刷社
- 田村知子（2011）『実践・カリキュラム・マネジメント』, ぎょうせい
- 中央教育審議会答申（2016）「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」
- 溝上慎一（2018）「溝上慎一の教育論 用語集」
http://smizok.net/education/subpages/a_glossary.html（参照日 2019.12.23）
- 村井万寿夫（2019）「カリキュラム・マネジメントによる教育課程をどのように編成するか」, 小松市教務主任研修会配布資料
- 文部省（1989）「小学校指導書 教育課程一般編」, ぎょうせい
- 文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」
- 文部科学省（2017）「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」